



水生生物の勉強会でNPOの方の説明を受ける参加者

○NPOとの連携事例

川を身近に、川をキレイに！ ～水生生物の勉強会～

事例の概要

平成5年頃の境川は、生活排水などの流入により悪臭がひどく、隣接するニュー相模自治会の住宅地を悩ませていました。

この問題を解決するために、有志で作られた環境委員会と自治会が合同で取り組みを始めました。初めは葦の植栽を行い、水の浄化を図りました。また、住民に川を身近に感じてもらうため、環境省に協力する形で全戸対象の生活排水調査を実施したり、クリーン作戦や魚の放流、イカダ流しのイベントを行ったりしました。

現在は年に一度夏に、境川の親水公園で水生生物の勉強会を開催しています。これは、住民が魚を中心とした



透視度を測定

境川に棲む生き物を採取し、水のきれいさの指標となる生き物について学ぶ機会が、同時に水質の調査や川の清掃活動なども行っています。

活動の甲斐もあり、現在の境川は透視度が1メートルを超えるまでにきれいになり、ドジョウやオイカワ、アブラハヤなどが生息するようになりました。

特徴・ポイント

水生生物の勉強会を行うためには、川に棲む生き物の専門的知識が必要となってくることから、神奈川県神奈川県水産技術センター内水面試験場に協力と指導を依頼してきました。実際に内水面試験場の協力と指導を受け、活動が行われていますが、内水面試験場から紹介されたNPO法人神奈川ウォーター・ネットワークも協力と指導を行っています。これにより、内水面試験場の都合がつかない場合にも水生生物の勉強会が開催出来ています。

自治会では、NPO法人との関連を持ったことがなく、紹介を受けた当初は不安に思う面もありましたが、NPO法人の方が熱心に協力してくれる姿を見て不安は解消され、現在では信頼関係が築かれています。

課題・展望

水生生物の勉強会には子どもとその保護者が多く参加しています。勉強会を担当する方々は、境川の昔を知る年配者の方から、子どもたちにもいろいろと教えていただきたいと考えていますが、年配の方の参加は少ない状況です。子どもたちの行事として捉えられていないのではないかと分析しています。

平成20年度からは近隣の自治会にも勉強会



水生生物の採取に向かう子どもたち

のお知らせをしており、流域の自治会と連携して行うことも考えています。

将来的には、「アユ、ウナギ、ウグイ、カワニナなどが棲める境川」「泳ぐことのできる境川」「ポイ捨てのない境川」「ホタルの飛ぶ境川」を目指しています。中でもホタルについては、境川の河岸にビオトープを作り、そこで生まれ育つホタルが飛ぶことを目標にしています。

団体の基礎DATA



団体名◇自治会法人 ニュー相模自治会
創立年◇昭和43年
世帯数◇214世帯
代表者名◇一之瀬 勇志さん



問い合わせ
自治会活動全般について：一之瀬 勇志さんまで
電話 042-754-5897
水生生物の勉強会について：
ニュー相模自治会環境委員会委員長 中川 博さんまで
電話 042-755-0853

体験・取材した職員から一言！



職員課
木林 寿康

自治会があるニュー相模団地の出来た昭和40年頃、近隣の工場から流れてくる悪臭の問題があり、現自治会長を中心とした地域の住民が自治会や市に働きかけ、その解決に尽力されたとのことでした。自治会、市、県といった組織にまかせっきりになるのではなく、まず住民自身が動くことで、自分たちの住む生活環境の問題に住民が主体となって取り組むという土壌がもともとあり、それが境川の問題に取り組みされた原動力だと思いました。



納税課
平井 友行

自治会長ら役員の方々の向上意識が高いと感じました。身近な川という要素を何とかいいものにして、地域みんなのものにしようという意気込みを感じました。また、普段川で遊ぶ機会の無い子供たちにとっては良い体験になっていると思います。子供と地域の年配者がかかわる機会としても貴重なものだと思いました。



旧篠原小学校

○NPOとの連携事例

廃校を活用して地域活性化を！ ～篠原牧馬自治会とNPO法人「篠原の里」～

事例の概要

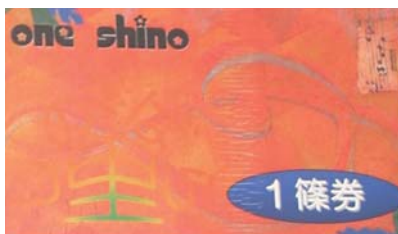
平成15年に篠原小学校が閉校になり、跡地利用として地元で管理して欲しいと旧藤野町から打診がありました。これに対し、地域の良い所を残しつつ、より良く成長させたいとの思いから、自治会、老人会、消防団など地元の組織の代表で構成する篠原地域振興協議会において引き受けることになりました。また、実際の管理主体をNPO法人にしようということになり、平成17年にNPO法人を設立し、旧藤野町と5年間の契約を行いました。合併後は相模原市と契約を継続しています。

特徴・ポイント

活動主体はNPO法人「篠原の里」であり、自治会から自治会長を含む2名がNPO法人の理事になるという連携を行っています。

NPOの事業は、廃校の教室を改造して泊まれるようにした宿泊事業、

地域の畑での農業体験などの体験型事業、のびるっ子会（市認定保育園）の運営、金曜日に行われる保育園児の保護者向けお茶会『里カフェ』、わはは（子育てサロン）の運営、たぐみの会（ロバの音楽会・鳥の巣箱作り）、炭焼きクラブ（炭焼きの体験学習）、食堂部会（レストラン運営）、地域通貨とも言える『篠券』の発行等と幅広いものとなっています。



拡大するとこんな感じです

運営費について、市から補助金は一切受けておらず、主な事業の支出は宿泊事業の収入および会員会費でまかなわれています。



地域通貨の『篠券』

ます。なお、保育園については会計が独立しています。

NPO会員は約35人で、半数がNPOと自治会両方の加入者です。芸術家やその夫婦など、若い世代も多く所属しています。

課題・展望

NPO法人の活動は、いずれの事業についても特定の住民しか参加、利用していないことが課題となっています。

旧藤野町時代から、町が芸術振興に力を入れていたこともあり、篠原牧馬の周辺にも芸術家が多数住んでおり、NPO法人の活動にも参加しています。そうした中、芸術家のように特別な技術を持っている人は活動に参加しやすいものの、普通の住民にとっては、参加しても出来ることが見つけにくいと感じ、参加しにくい状況があります。設置当初には、地域の住民全員が参加することを目標んでいたため、誰もが参加しやすい

活動の展開が課題となっています。

また、高齢化が進んでいることも参加者の低下につながっていると、参加が可能な年齢層の住民についても、仕事の合間を縫って参加することに抵抗もあるため、そうした層の取り込みも課題となっています。

活動への参加者が少ないことは、参加している住民と参加していない住民との間に地域活性化に対する意識の差を生んでいることも課題の一つです。例えば、都市部からの宿泊客は、自然を満喫するあまり、無断で私有地の山菜取り、きのこ狩り等をしてしまい地主さんとのトラブルの原因となり、このような事は参加していない住民には迷惑というデメリットにもなっています。

自治会長としては、篠原の里の活動に地域の住民の全員が参加するようになって欲しいと思っています。そして、都市部からの篠原の里を利用する人が増えることと、良いルールをつくり、マナーを醸成し、地域住民と真心の籠もった交流をし、地域の活性化に努力していきたいと思っています。

団体の基礎DATA



団体名◇篠原牧馬自治会
創立年◇平成18年
世帯数◇76世帯
代表者名◇佐藤 治男さん



問い合わせ
自治会について：佐藤 治男さんまで
電話 042-689-2287
NPOについて：NPO事務局 後藤さんまで
電話 042-689-2051

体験・取材した職員から一言！



職員課
木林 寿康

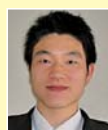
取材をしていて常を感じられたのは、地域が積極的に地域の価値を創造しようとしていることで、自治会長を通じて伝わってきました。これは、篠原守成会という地域の住民が主体的に地域のことを考える風土があったことが大きいと思います。



都市交通計画課
齋藤 竜太

廃校となった施設をうまく利用し、保育園やカフェを作り人の集まる場所として地域の活性化をはかっており勉強になりました。宿泊施設として旧篠原小学校を活用し、夏場なんかは涼しいのでごしやすいためこの情報が広まれば人気が出るのではないかと思います。

今後、篠原牧馬の活動が広く知られるよう行政側の対策も考える必要があるのではないかと思います。



納税課
平井 友行

人口減少で小学校が廃校になるというマイナス面を乗り越え、事業を確立するまでに至る努力は大変なものであったと思われます。それを成し遂げてきた方々のエネルギーが、何よりもこの地域にとってかけがえのないものだと感じました。